

# 学区探訪

三・四  
郷土室だより  
四十一号

## 学区探訪

大門学区は十一年目という新しい学区ではありますが、調べてみるといろいろとおもしろいことを発見することが出来ます。大門の渡しや昔のしめ縄作りなどは、お年寄りからとてもおもしろい話を聞くことが出来ました。今年、学校に設けられた郷土室では、まだまだたくさん残されているであろう学区のいろいろな話を集めたいと考えています。身近なところに思わぬ歴史が

あるものです。例えば、藪田にある子ども会の花壇を囲っている長い石、これは昔、早川にかかっていた石橋です。昔、早川は川はば二メートルぐらいできれいだったので、子どもたちはみんな夏になると泳いだそうです。身近にあるちよつとしたものから学区の昔をしのぶことが出来ます。また有名な足利尊氏石宝塔や三鹿の渡しのことなどももっと調べてみるとおもしろいでしょう。矢作川に囲まれたこの大門学区、これからの調査でまだまだおもしろい話を集めることができそうです。

# 学区探訪

三・五  
郷土室だより  
四十二号

## すばらしき

### 大門学区

一月九日に第一号が出てから、きょうで四十二号を数えるにいたりました。二か月足らずの間に集中して書き続けてきましたので少々無理をしたところもあったのではないかと思います。まちがいや足らないところがありましたら、今後また勉強をしておいていきたいと思っています。私たちが、学区のお年寄の家を訪ねてま

わっているいろいろな話を集めたのが二年前。そして、去年の十周年記念誌を編集する時にまた資料を集めたり整理をし、さらに今年度の文明展で郷土室を設けることができました。三年がかりで勉強させていただきましたことをまとめたのがこの郷土室だより学区探訪です。私たちは矢作川に囲まれたこの大門学区のことを調べれば調べるほどそのすばらしさに気づくことが出来ました。大門で育つみなさんにも、ぜひこのすばらしさを知ってもらいたいと思います、書き続けてきました。

# 学区探訪

郷土室だより  
四十三号  
最終号

三・五

続・すばらしき

## 大門学区

大門学区の人々は矢作川と共に生活し、子どもたちは矢作川と共に育ってきた、というのがこの地域の最大の特徴だと思えます。矢作川は時には豊かな水で人々に大きな恵みを与えてきました。大門の農業が盛んなのも矢作川のおかげです。また、時には矢作川の大洪水は学区に大きな被害を与えてきました。矢作川の洪水にまつわる話

はいくつか書いてきたとおりたくさんあります。よいことも悪いことも、とにかく矢作川ぬきにしてはこの大門学区を語ることはできません。私たちは、学区を調査してまわっている時、矢作川の堤防上に立って川と学区の家々を見くらべながら昔のようすに思いをはせたことがたびたびありました。この学区のすばらしさを子どもたちに伝えずにはいられない気持ちになったものです。特にもうすぐ卒業していく六年生に伝えたくて、三学期にいそいで書きました。学区を誇りに卒業してほしいのです。

# 学区探訪

郷土室だより  
四十四号

一・九

学区に学ぶ

私が郷土室だより「学区探訪」を出したのは、もう二年前になります。四十三号が最終号でした。あの時、私は六年生担任。この子どもたちが卒業するまでに大門学区のすばらしさを伝えずにはいられない気持ちになり、卒業を控えた三学期に毎日印刷したことを思い出します。矢作川に囲まれたこの大門学区にはすばらしい歴史があります調べれば調べるほど興味深い話を聞くこと

ができました。あれから二年。学校と学区のつながりはますます強くなりつつあります。学区の伝統産業しめなわ作りを取り入れた授業も行なわれました。学区の方々を講師に招いたクラブ活動もあります。学区の農家に寄贈していただいた昔の農機具も郷土室に展示してあります。学校はこれからさらに地域に学ぶという姿勢で、学区の中から地域教材を開発していきたいと考えています。この郷土室だより「学区探訪」は、子どもたちの学習の手がかりを書いていきます。

# 学区探訪

郷土資料の  
四十五号

一・十

## 大樹寺村

この地域の沿革について調べてみました  
明治初めの廃藩置県によりこの三河地方は  
額田県となりますが、大門学区は額田県の  
第七大区の第二小区に属していました。そ  
の後、額田県が愛知県に合併されました。  
そして明治十七年、郡内を組に分けそれぞ  
れに戸長役場が設けられました。

第十六戸長役場・・・大門村・上里村・日  
名村・八帖村

第十七戸長役場・・・鴨田村・井ノ口村・

藪田村・大樹寺村・  
百々村

つまりこの時、大門学区は大門・上里と藪  
田・大樹寺で異なる地域に別れていたこと  
になります。そして明治二十二年、市町村  
制の実施によりそれぞれの村が合併して新  
しい村ができました。

大樹寺村・・・鴨田・大門・上里・百々・  
藪田・井ノ口・大樹寺

今の北中学校の学区ぐらいの地域が大樹寺  
村で村役場は鴨田にありました。

# 学区探訪

郷土資料の  
四十六号

一・十一

## 岩津町

前号の続きです。

明治三十九年、町村合併により四か村が  
合併して岩津村ができました。

岩津村・・・大樹寺村・岩津村・細川村・  
奥殿村の四か村合併

そして、昭和五年に町制施行により岩津町  
と改称されました。

この岩津町は、愛知県の中央、岡崎市の  
北にあって矢作川の清流に臨む町として発

展しました。東西約九キロ・南北約六キロ  
面積約四十平方キロの岩津町は人口八五五  
九人（昭和五年国勢調査）で、農業・養蚕  
の盛んな町でした。また、岡崎市に隣接し  
ており交通運輸も便利で商業・工業も発展  
しておりますが、昭和三十年に岡崎市に  
合併して現在にいたっています。この合併  
は昭和二十九年に発表された愛知県の第一  
次町村合併計画試案によるもので、この時  
岩津町・福岡町・竜谷村・藤川村・常磐村  
河合村・山中村・本宿村の八か町村が岡崎  
市に合併しています。



# 学区探訪

一・十二  
郷土資料より  
四十七号

## 大門

東は上里・藪田・大樹寺、南は日名、西は大きく湾曲する矢作川を隔てて北野・森越・舳越の町と接しています。岡崎市史によると、慶長九年（一六〇四）上下に分れ元禄以後また中大門・大門新田が分立しました。村名については、二説あります。一説は、奈良朝のころ矢作北野に七堂伽藍の薬師寺があり、その山門をこの地に築いたことによるというもの。もう一説は、八劍

神社が昌泰三年（九〇〇）に紀伊国熊野の大門神社の宝剣を護持してこの地に降臨したことによるといいます。

また、最初の薬師寺の山門が築かれたため大門と言われるようになったという説については、そのころ大門は矢作川の西岸に位置していたと考えられています。後洪水のために山門が流され、流れが変わり山門があつた後は、矢作川の東岸に位置するようになりましした。明治七年の調査で、

上大門・・・戸数二十七、人口百二十六  
中大門・・・戸数四十三、人口百七十八  
下大門・・・戸数三十七、人口百五十四  
大門新田・・・戸数九、人口四十

# 学区探訪

一・十三  
郷土資料より  
四十八号

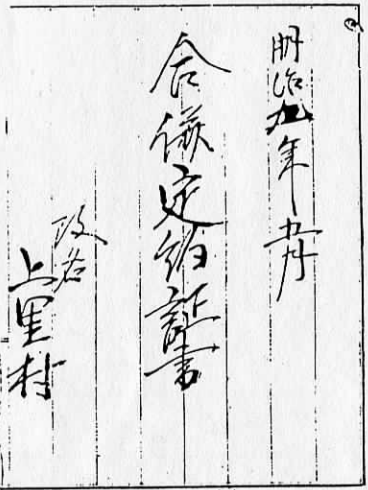
## 上里

北は矢作川を隔てて豊田市宗定と対し、東は井ノ口、南は藪田、西は大門と接しています。

村名については、下里に対する名であるとも考えられますが明らかではありません。岡崎市史には、「上ノ里」と書かれています。

上里は、初め江戸幕府領でしたが、後に一郷を伊賀八幡宮の神領とし、岡崎藩も分

領するようになりましした。そして、伊賀八幡領が東上里と言われるようになりましした、神領は、今の上里一丁目あたりです。神領については学区探訪の第六号にくわしく書いてあります。明治七年の調査で、  
上里・・・戸数三十二、人口百五十三  
明治九年、上里と東上里（神領）は合併しました。  
下の資料が  
明治九年、  
合併定約証  
書の表紙。



# 学区探訪

郷土資料より  
四十九号

一・十四

## 大樹寺

矢作川左岸沿いの上大門・中大門の東にあり、北は藪田、東は鴨田に接しています。もともとは、矢作川の氾濫による自然堤防上に成立した集落です。もとは、大樹寺領門前の地と合わせて大樹寺村といわれています。すなわち鴨田村の分郷です。大樹寺の所在地である鴨田村より開発された村であるので大樹寺村と名づけられたのでしよう。

村の草分とされる市川家の伝により、桶狭間の戦いに敗れた今川義元の支流の某が大樹寺本坊にかくまわれました。彼らは、後に大樹寺西の大藪の地に居住し、農民となりそこを大藪村とよびました。その後、大藪の地は農業に適していないというので藪田村の東南の地に移り住みました。それがこの大樹寺村の始まりだということです。初めはここは新家村とよばれていました。

明治七年の調査で、  
大樹寺・・・戸数二十一、人口九十二

# 学区探訪

郷土資料より  
五十号

一・十七

## 藪田

矢作川の沖積地左岸に位置し、北は上里東は井ノ口、南は大樹寺、西は大門に接しています。

松平親氏に討たれた藪田忠元は藪田の出身だといわれています。その後、忠元の残党が藪田に逃れてきて岩津の中根大膳に属して暴威を振るっていましたが、また松平信光に討滅されたそうです。

藪田という地名の由来は明らかではありません。

ませんが、その昔藪田の土地はよく肥えており作物がよく伸びるので田の中の人影も見えない程であったといわれています。すると竹の藪ではなく、草の藪であったのかもしれない。

寛政八年（一七九六）の大洪水で青木川の堤防が破れ、田畑がごとごとく流失したこともあります。土地は大河のごとき惨状でした。そのため岡崎藩主本多殿様へ年貢を上納することができないばかりか、村民の生活にも困りました。明治七年の調査で藪田・・・戸数十七、人口六十三